

自主防活動発表

(新町1丁目の取組)

令和4年6月5日(日)
(大竹市)防災セミナー
14:40～15:10

自己紹介

嘉屋直昌 の自主防災との関り

- 2010年
自主防災設立（総務部長）
- 2011年～2016年（6年間）、2021年～（2年目）
新町1丁目自治会長
- 2021年
「呼びかけ体制づくり・ステップアップ訓練」参加

避難の呼び掛け体制づくり
自主防災活動(新町1丁目の取り組み)

2010年:

「自主防災設立」の経緯

2021年:

「呼びかけ体制づくり」への取り組み

「自主防災設立」の経緯(2010年)

2010年の状況:

当時、大竹市の自治組織71の内、既に38団体が自主防災を設立していたが伸び悩んでいると大竹市危機管理監より自主防災設立の要請を受ける。

1.自治会役員会に図る

2.大竹市危機管理監、及び関係部署との詳細調整(建築基準法等)

3.臨時総会開催

議案1:自主防災設立

議案2:規約の改訂(交通防犯部⇒交通防犯・防災部に改める)

議案3:予算の修正(防災倉庫設置)

4.自主防災設立申請

「自主防災設立」後の活動

- 非常連絡網作成 
- ハザードマップ作成
- ひろしま防災リーダー養成講座受講(2011年) 外傷性窒息・トリアージ
- 毎年防災訓練実施(消防団との連携、座学、炊き出し) 
- 地域内の井戸を復活
- 非常持ち出し袋(5点セット)全戸配布
- 6人の防災リーダー育成(大竹市43人)

避難の呼び掛け体制づくり 自主防災活動(新町1丁目の取り組み)

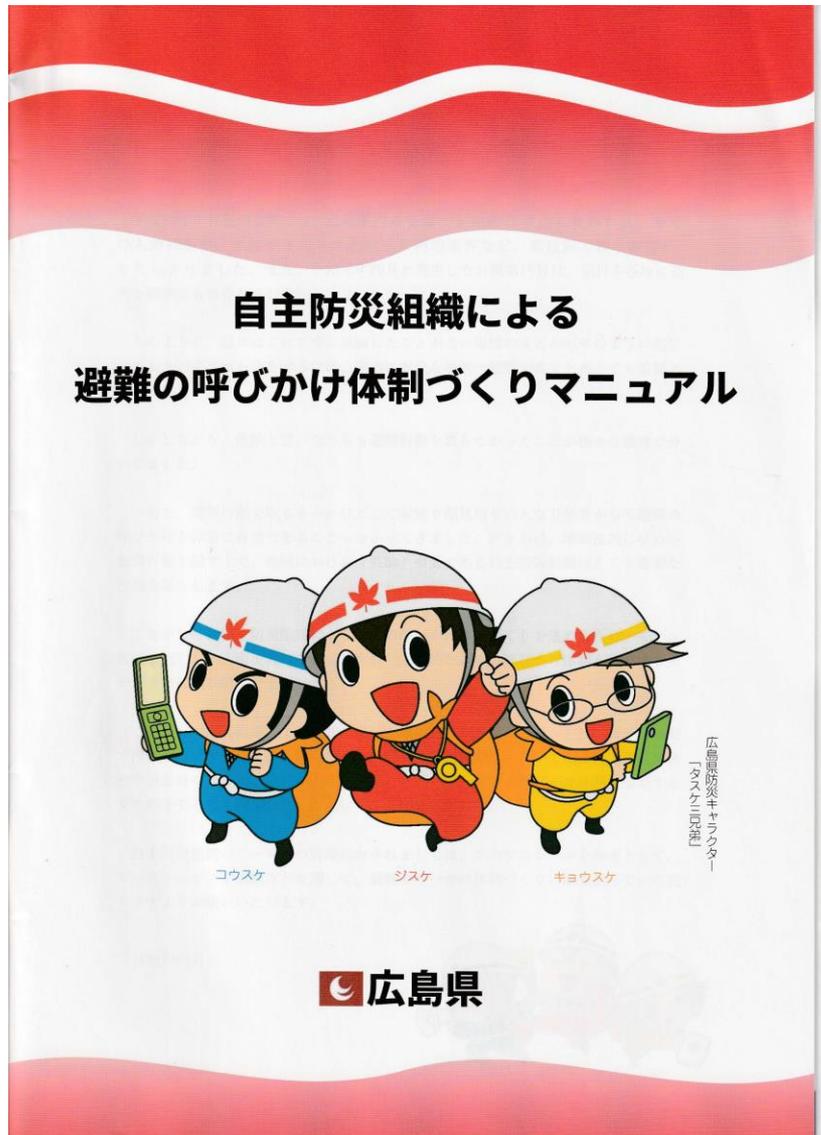
2010年:

「自主防災設立」の経緯

2021年:

「呼びかけ体制づくり」への取り組み体験談

広島県・大竹市呼び掛け訓練への取組(2021年)



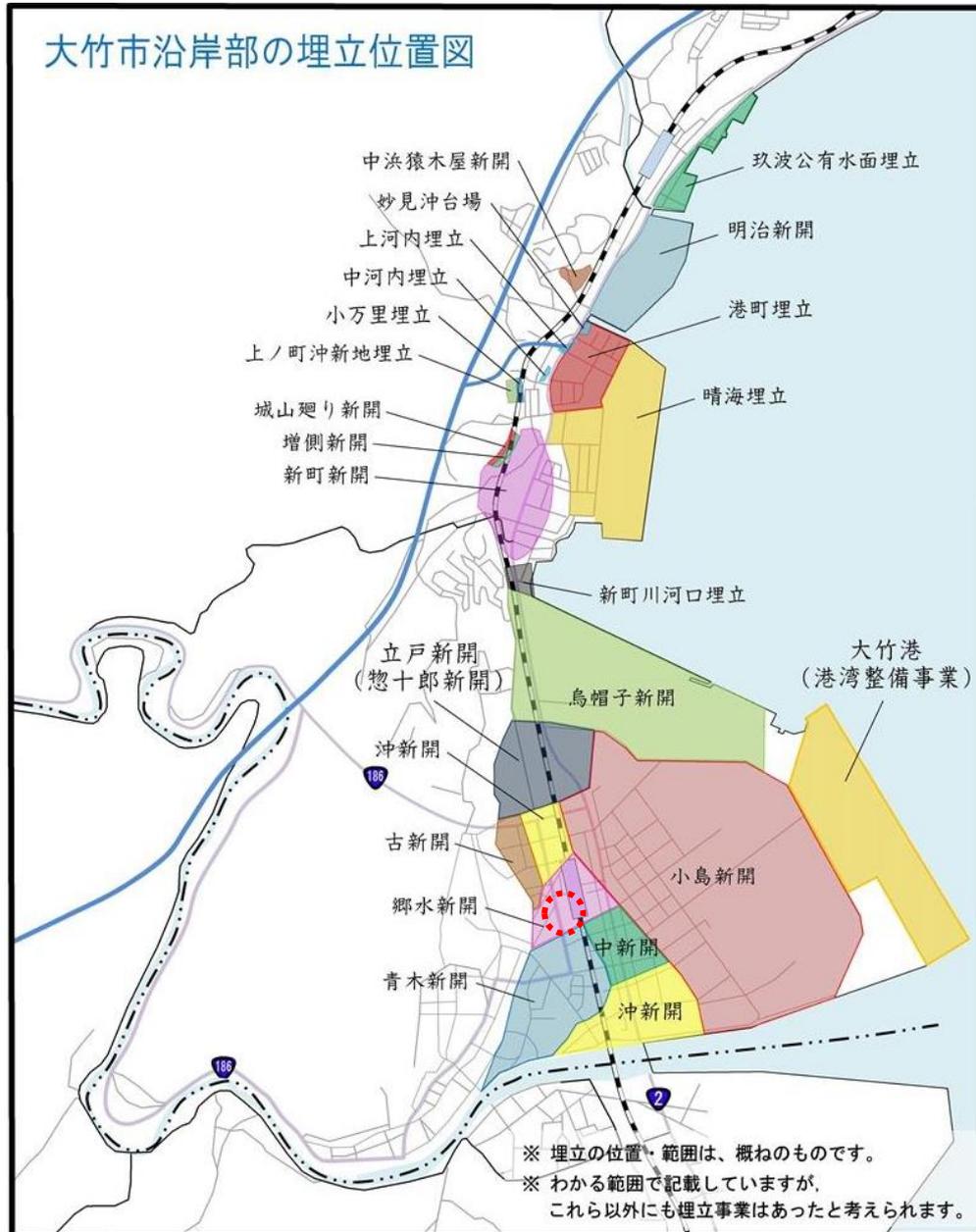
マニュアルに沿って新町1丁目の実態と遣るべき事を浮き彫りにする



まずは地域の概要を把握

出典: 広島県自主防災資料より

大竹市の市街地は高低差の無い埋め立て地



海拔2メートル以下の地域が大勢を占める

出典:大竹市歴史研究会より

1 参加組織の特性

○:あり、×:なし

新町1丁目

自主防結成:H22.11.11

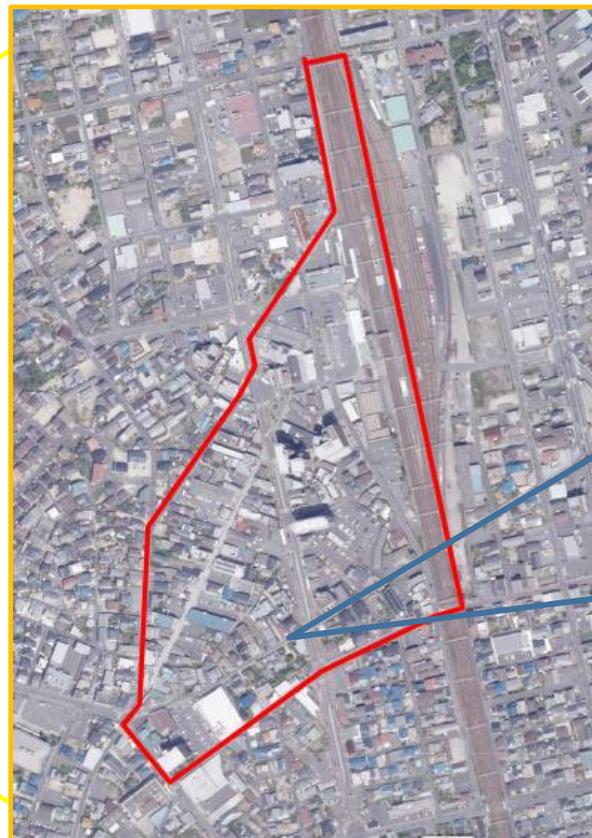
住民基本台帳(R4.4.1)

世帯数:389世帯

人口:813名

防災リーダー:6名

ハザードマップ上の有無			高潮浸水 想定区域	内水氾濫 実績
土砂災害 警戒区域	洪水浸水 想定区域 (外水氾濫)	津波浸水 想定区域		
×	○	○	○	○



大竹市資料に重ねるハザードマップ情報追加

洪水によって想定される浸水深
0.5m~3.0m

高潮によって想定される浸水深
3.0m~5.0m

津波によって想定される浸水深
0.5m~1.0m

防災LINK

2021年、広島県・大竹市呼びかけ訓練への取組 (問題点の洗い出し)



- 呼びかけのタイミング? レベル4
- 呼びかけ範囲は全住民対象、自治会員は連絡網、その他拡声器
- 要支援者の特定 支援活動は複数の防災リーダーがチームで活動
- 垂直移動できない平屋調査
- 呼びかけ方法 受手希望の電話番号(固定・携帯)で連絡網を作成
- 知らない電話には出ない 連絡網上位の電話番号登録
- 警戒レベルと避難先 「誰が」「誰を」「何処へ」
- 連絡・避難完了の確認方法 連絡網の最終責任者は完了連絡を連絡網の上位者に返す
- 個人情報の管理方法 班長に渡す連絡網は班内に限る
- 海拔表示が街中に欲しい

訓練の災害想定は、大雨・洪水による床上浸水
(最大軒下まで)

【「誰を」「誰が」「何処へ」】 → (垂直移動を優先に考える)

- ・要支援者のリストアップを行う。 → (民生委員と協力)
- ・垂直移動できない平屋を調査し移動先を決める。
→ (①近所の知合い②マンション)
- ・マンションの受け入れ可否を確認する。
→ (2つのマンションで受入承諾を得る)
- ・自力で垂直移動・近所への避難が困難な人を
支援対象とする。 → (対象は7世帯)
- ・要支援者を防災リーダー複数で2チームに分かれ
支援する。 → (支援者の被災回避)

【呼び掛け】

- 「見知らぬ人からの電話には出ない」への対応
連絡網で使用する電話番号を掛ける側、受ける側
双方で登録しておく。
- 個人情報保護法への対応として班長は班内だけの
情報とする。
- 連絡網の最終責任者は班長、完了の連絡は上流者
に返す。
- 避難開始レベルは「警報レベル4」とする。
- 防災訓練シナリオ(タイムスケジュール)  タイムスケジュール
- 防災訓練は日常の生活有りの儘で行う。
(外出等、一切制限は行わない)

2021年、広島県・大竹市呼び掛け訓練

● 2021年11月20日 自治会自主防災避難訓練(机上)実施

①地域性訓練【DIG】

行政の対応に質問

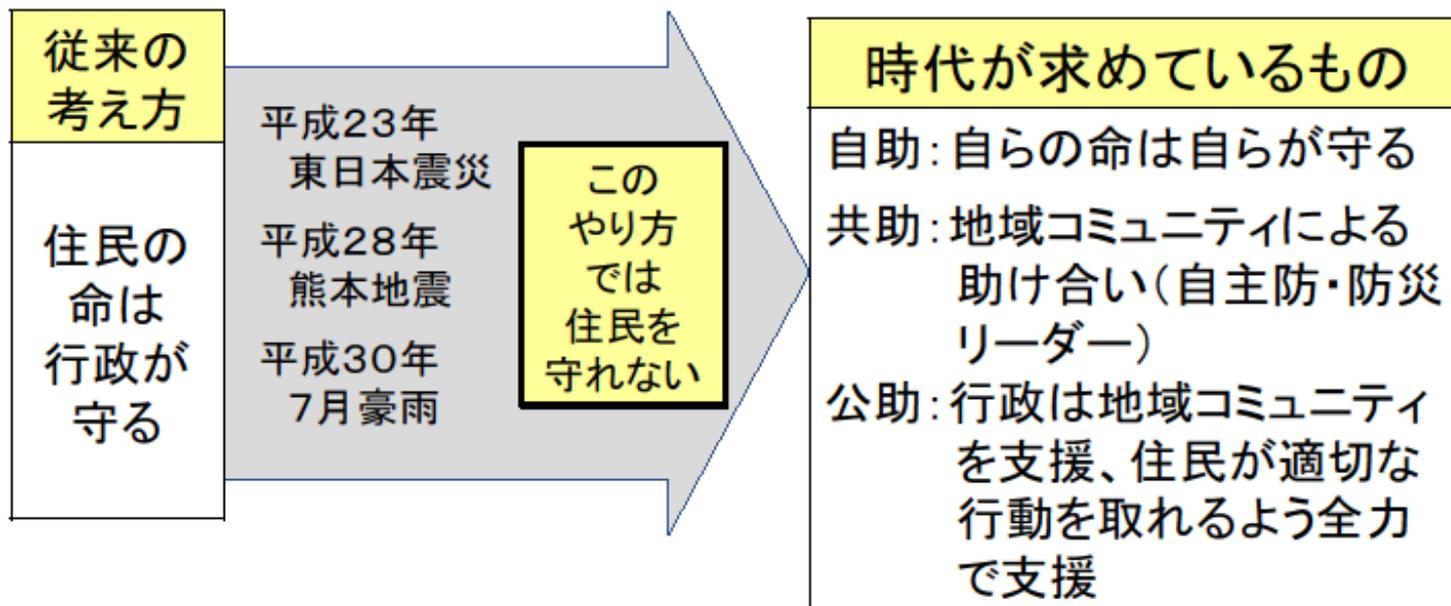
②呼びかけ体制づくりワークショップ【WS】

③ひろしまマイ・タイムライン作成指導【MTL】

④訓練調整会議

● 2021年、広島県・大竹市呼び掛け訓練への取組

時代が求める防災のあり方の変化



平成30年12月 中央防災会議・防災対策実行会議(30年7月豪雨災害・避難に関するワーキンググループ)報告書より

＜国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～＞

「行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。」

15

2021年、広島県・大竹市呼び掛け訓練

- 2021年11月27日
自治会自主防災避難訓練(実働)実施

①避難訓練

呼び掛け訓練応答記録

- ・呼びかけ応答率 →67%
- ・連絡に要した時間 →45分

②訓練振り返り

呼びかけ体制づくりの 目的を考える

- ・短時間で要支援者を安全に避難させる
- ・自治会長の役割
状況把握に努めリアルタイムに対応を指示する。
- ・防災リーダーの役割
避難時のコミュニケーション役に徹する。
- ・班員の役割
要支援者への対応は、
グループ内の相互支援で乗り切る。

【呼びかけ方法の問題】

- **避難呼び掛けに45分は掛かり過ぎ！**
→ 全自治会員対象、応答率67%
- 自治会長の作業を分担せよ！
→ 2～3人の補佐役が必要
- 各個連絡方式と数珠型連絡方式（PTA方式）
を再検討せよ！
- 知らない人からの電話には出ない！
→ 事前登録を徹底
- **全自治会員にメッセージを伝える必要があったのか？**

呼びかけ体制づくり **反省点と指摘事項②**

【班の区分方法の問題】

- ・要支援者の絞り込みが甘い！
- ・班の構成が、4世帯～15世帯とアンバランス！
- ・班を2～3人のグループに分割してグループ内の相互支援で賄え！

【自治会長・防災リーダー役割の問題】

・自治会長は指揮を執るために必要な①情報収集、②状況判断・意思決定、③新たな状況に対応するための指示、④状況把握等、に配慮することができなかつた！

・防災リーダーが直接避難支援に向かう必要は有ったのか！コミュニケーション役に徹するべき！

声掛け訓練を終え新町1丁目の今後の課題

指摘事項を受け止めた上で

・班構成の見直し

自治会員の高齢化が進み、班長職が困難な方も年々増えている中、班の構成はどう有るべきか？現在の4世帯～14世帯とアンバランスな班構成を見直すとともに、被災時に助け合いが可能な班構成を検討する。

・次のテーマは地震への備え

昨年の訓練は大雨による浸水災害で逃げる時間的余裕があったが、地震は備えが全て！1週間を生き延びる備え？

— 以上 —

新町1丁目発表時 補足資料

1 参加組織の特性

○:あり、×:なし

新町1丁目

自主防結成:H22.11.11

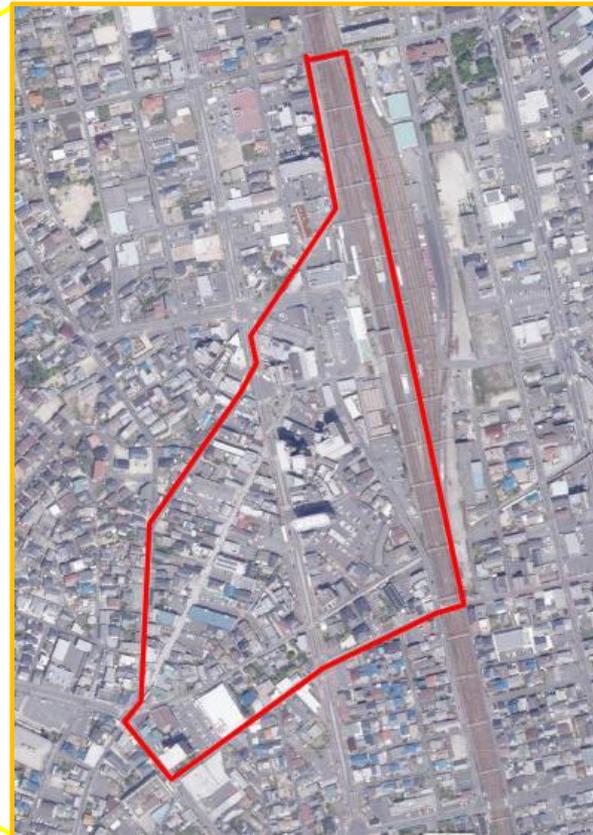
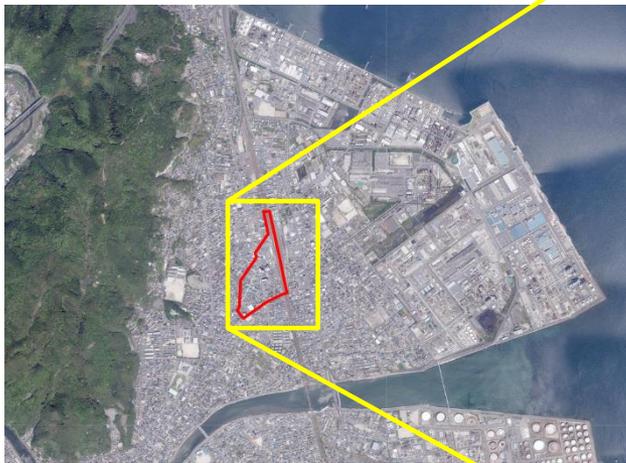
住民基本台帳(R4.4.1)

世帯数:389世帯

人口:813名

防災リーダー:6名

ハザードマップ上の有無			高潮浸水 想定区域	内水氾濫 実績
土砂災害 警戒区域	洪水浸水 想定区域 (外水氾濫)	津波浸水 想定区域		
×	○	○	○	○



ハザードマップ

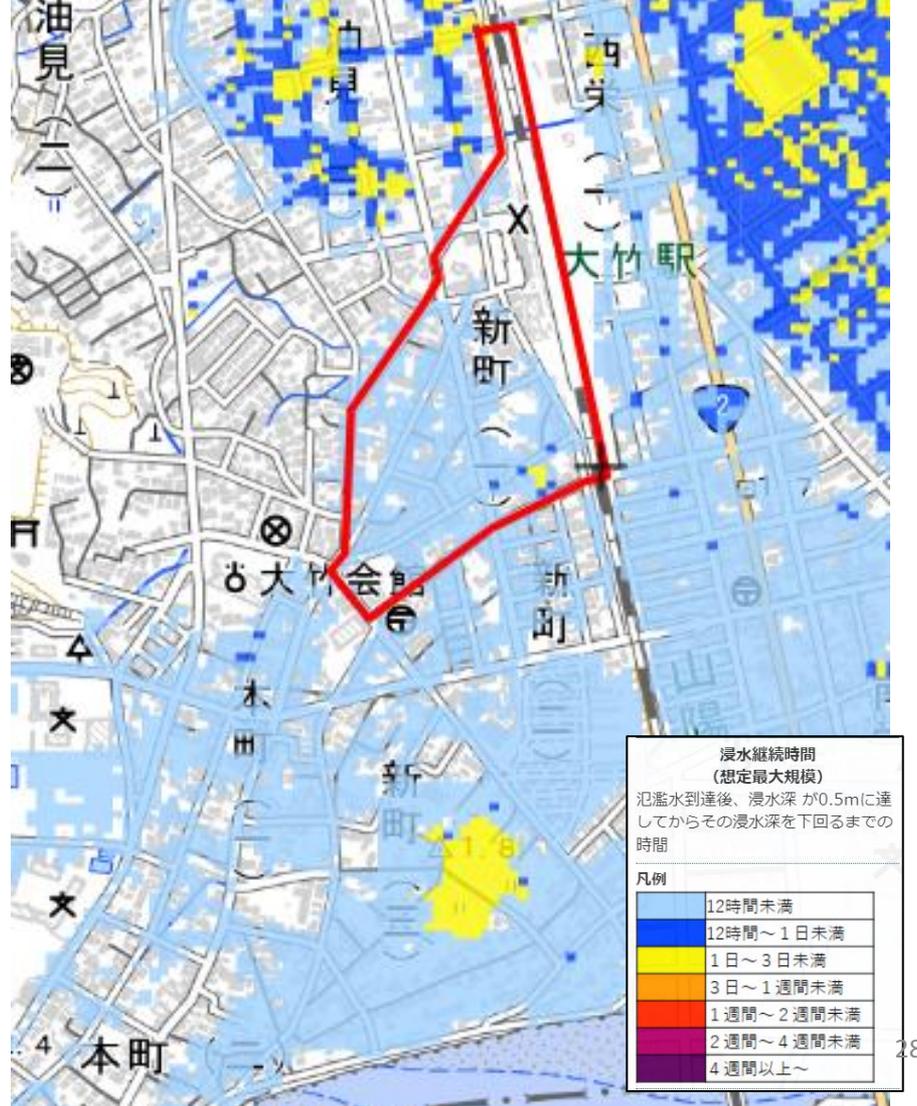
洪水災害(浸水深)

最大5m未満



洪水災害(浸水継続時間)

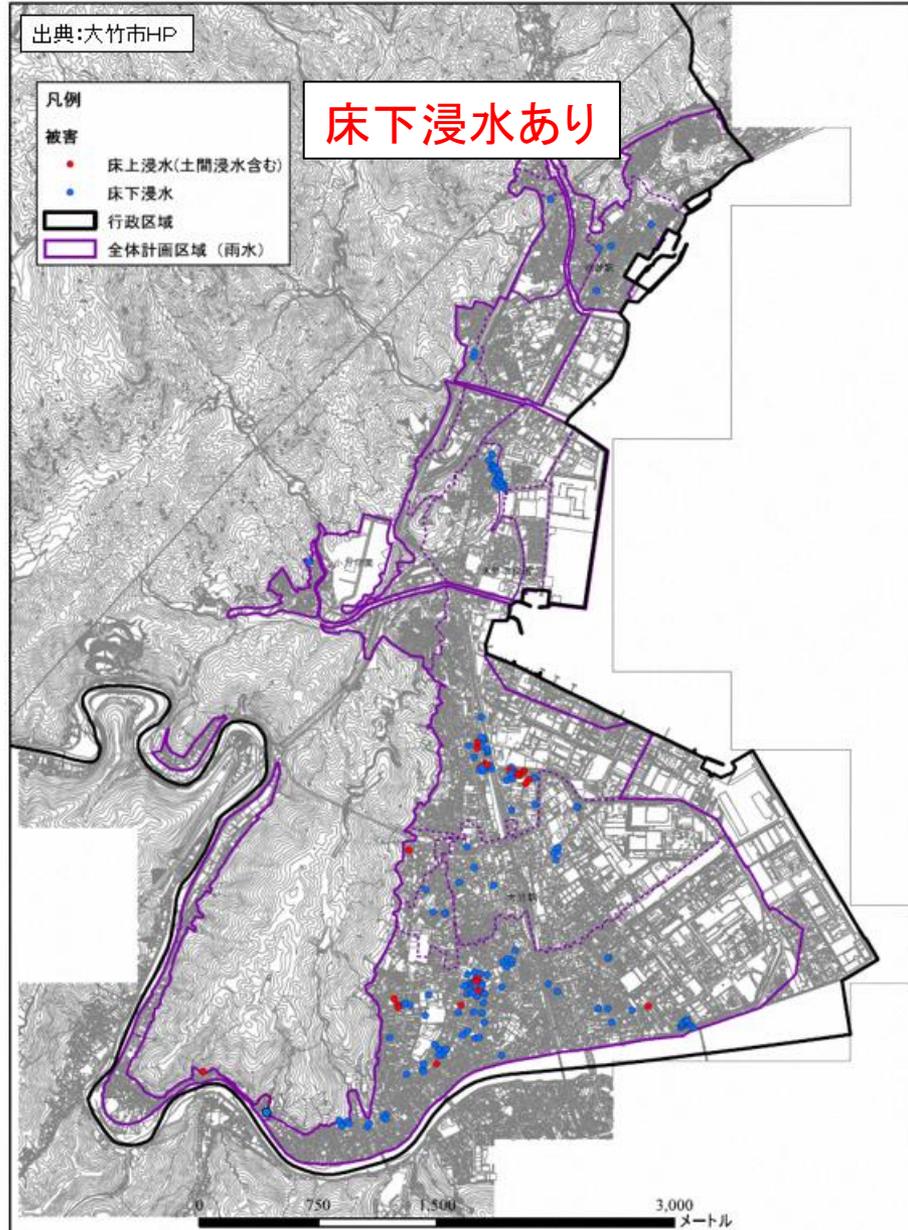
最大12時間未満



床上床下浸水実績



床上床下浸水実績図



平成21年度以降、総務課(危機管理課)で把握している、大雨による床上浸水等の被害状況を基に作成しています。

津波災害(浸水深)

最大1m未満



津波浸水想定 (想定最大規模)
津波が発生した際に浸水が想定される区域と水深

凡例

20m ~
10m ~ 20m
5m ~ 10m
3m ~ 5m
0.5m ~ 3m
0.5m ~ 1m
~ 0.5m
~ 0.3m

警戒レベル (避難情報)	避難区分	適用区分				適用外		
		土砂 警戒 区域	洪水 浸水 区域	高潮 浸水 区域	津波 浸水 区域			
レベル5 (緊急安全確保)	緊急安全確保	△	△	△	△	内水 氾濫		
-----レベル4の間に必ず避難を完了する-----						対象外		
(高齢者等 避難) レベル3	(避難指示) レベル4	屋内安全確保	×	○ ※条件付	○ ※条件付		△	発令基準 未確定 ↓ 避難情報 発令なし
		立退き避難	○	○	○			

- 凡例
- : 望ましい行動
 - △: 状況により避難者自身が判断
 - ×: 危険・避けるべき行動
 - ※ 条件付: 後述する「3つの条件」が必要

土砂災害
 (赤色)特別警戒区域
 (黄色)警戒区域
 どちらも立退き避難が必要